

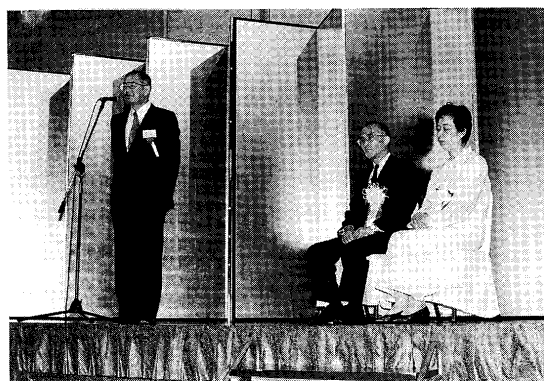
〔問い合わせ先：(財)地域 地盤 環境 研究所内
クリーンソイル日蘭技術交流会事務局 田中 誠
電話 06—6539—2971

地下水地盤環境に関する研究協議会事務局 飯田智之
電話 06—6539—2973〕
(文責：田中 誠 (財)地域 地盤 環境 研究所
(旧名称：(財)大阪土質試験所))

(原稿受理 2000. 5. 17)

石原研而教授学士院賞受賞祝賀会

「土と基礎」5月号に報じられたとおり、石原研而国際土質地盤工学会会長が液状化に関する研究業績に対して学士院賞を授与された。去る7月28日、その祝賀会が東京市ケ谷の私学会館において開催された。受賞者の勤務先であった東京大学および現在勤務している東京理科大学とともに、地盤工学会が共催した。冒頭に学士院賞の紹介があった後、受賞者が入場、岸田地盤工学会会長の祝辞で、会が始まった。会長は祝いの言葉に続いて、石原教授が紙片ではなく生物としての馬好きであることに触れ、今後は馬の研究でも中央競馬会から受賞できるほどの業績を期待する旨、熱く希望された。上記2大学の学科主任教授から各々の大学における石原教授の学生指導ぶりが紹介された後、福岡正巳元会長の音頭で乾杯した。祝宴の後半では赤井浩一元会長が、徳富蘇峰の帝國學士院賞受賞を祝う辻善之助（注）の言葉、「学・識・才に秀でていることが一流学者の要件（大意）」を引用して、祝辞を述べられた。また土木学会からも、山本卓郎副会長に祝辞を賜った。引き続き石原教授の活動を支えて来られた奥様に花束と記念品を贈呈し、改めて感謝の気持ちを表した。最後に石原教授から挨拶があり、長年にわたる学界や学生諸君の貢献に謝意が述べられた後、特に吉田喜忠氏、周郷啓一氏による研究支援にお礼の言葉があった。また、学士院会員に対して液状化



写真—1 祝賀会冒頭で挨拶される岸田会長

の研究業績を紹介することに尽力された、澤田敏男地盤工学会元副会長、岡本舜三東大名誉教授お二人の恩に謝する旨も、述べられた。最後に参加者の拍手に送られて石原教授御夫妻は退場され、さしも盛大な祝宴もお開きとなった。

(注) 辻善之助：東京帝國大學文学部教授で仏教史専攻、文化勲章受賞者。

(文責：東畑郁生 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻)

(原稿受理 2000.8.21)

吉嶺充俊会員「R.M. Quigley Award」を受賞

吉嶺充俊会員（東京都立大学工学部）が、2000年度の R.M. Quigley Award（キグレイ賞）を受賞することになりました。この賞は、前年度に Canadian Geotechnical Journal（カナダ地盤工学論文集）に掲載された論文の中から The Best Paper Award（最優秀論文賞）として選ばれるものであり、1995年度までは CGS Award（カナダ地盤工学会賞）と呼ばれていたものです。1973年に M. Bozozuk（ボゾズク）博士が受賞して以来、G.G. Meyerhof（マイヤーホフ）教授、N.R. Morgenstern（モーゲンスターン）教授、S. Leroueil（レロール）教授、K.Y. Lo（ロ）教授、R.K. Rowe（ロウ）教授らカナダの著名な研究者が受賞者に名を連ねています。今回の受賞論文¹⁾は、吉嶺会員が文部省在外研究員としてカナダのアルバータ大学に滞在中に執筆したもので、東京大学において石原研而教授の指導によって

行った砂の非排水せん断試験結果を再考察すると共に、P.K. Robertson（ロバートソン）教授らと協力して海底斜面の崩壊調査事例を検討し、コーン貫入試験を用いた砂地盤の液状化・流動破壊の評価方法を提案しているものです。我が国の地盤工学の若手の研究者が、このような海外での格式のある論文賞を受賞することは、御本人にとっても大変名誉なことであり、また地盤工学会にとっても喜ばしい快挙であります。

参 考 文 献

- 1) Undrained shear strength of clean sands to trigger flow liquefaction, M. Yoshimine, P.K. Robertson and C.E. Wride, Canadian Geotechnical Journal, Vol. 36, No. 5, pp. 891~906, 1999.

(文責：龍岡文夫 東京大学工学部)

(原稿受理 2000.8.21)